

2021 年度 活動報告書

2022 年（令和 4 年）4 月

一般社団法人 関西経済同友会
グローバル・ベンチャーエコシステム委員会

【 目 次 】

1. 活動方針	2
2. 活動一覧	3
3. 今年度の成果 <実装課題への対応>	4
4. 活動を通して見えた問題	6
①ベンチャー企業側	
②同友会メンバーを含めた既存企業側	
③委員会並びに同友会事務局側	
5. 各問題を受けた今後の対応策案	7
①当委員会として取り組む対応策案	
②エコシステム全体で取り組む対応策案	
6. 関西エコシステム概況	11
・数字で見る関西	
・2021年度トピックス	
7. 委員会活動状況	15
8. 終わりに・次年度以降の活動に向けて	22
9. 謝辞	23
10. 2021年度 グローバル・ベンチャーエコシステム委員会 名簿	24
11. 参考	28

1. 活動方針

1. 問題意識

- ・ 2019 年末から続く新型コロナウイルスの感染拡大で、世界は不可逆的な変化に直面している。世界を覆ったパンデミックとそれに伴う人間の行動変化は、単に個人レベルの生活様式に留まらず、様々な生き物のいのちやその営み、地球環境等を念頭に置き、社会・経済・企業活動の在り方を見直すトリガーとなった。
- ・ この歴史的転換期において我々は、あらゆる側面で未来の地球に資する事業や活動を選択せねばならない。なかでも企業にとっては、従前の成功モデルを脱ぎ捨て、様々なプレイヤーと共創・協働しイノベーションを起こすことが緊急の使命であり、また同時に生き残りをかけた課題となっている。
- ・ そのような状況下、関西にとって、イノベーションの源泉となるベンチャーエコシステムの活性化は、ますます必要不可欠である。しかし関西は、高いポテンシャルを有するにも関わらず、十分に活かし切れないままである。当会でも、2016 年度より、エコシステム活性化に向けた実装活動を続けてきたが、関西に集積する世界トップレベルの大学・研究機関と経済界の連携、国内外のネットワークとそれを活用した情報発信、既存企業とベンチャー企業の連携など、未だ、取り組むべき課題は山積している。
- ・ 今年度は、これらの課題改善に向けて実装活動を継続する。さらに、2025 年に開催される大阪・関西万博を一つのマイルストーンと位置付け、未来社会に資する独自の KPI も設定する。そして、関西のベンチャーエコシステムを真のグローバル・ベンチャーエコシステムへと発展させるべく、積極的な活動を行う。

2. 実装課題

① 産官学連携促進

- ・ 他経済団体、民間のベンチャー支援組織（日本スタートアップ支援協会 等）、行政・自治体主導の各種活動（大阪イノベーションハブ、関西イノベーションイニシアティブ 等）、大学・研究機関等との連携・協働を促進する
- ・ 各プレイヤー間の連携促進により関西のエコシステムの見える化に貢献する 等

② 対外発信力の強化

- ・ 関西のエコシステム、特に関西発ベンチャーの認知度アップに貢献する
- ・ メディア活用も含めた、情報発信・PR・IR の拡充を会員企業と共に支援する 等

③ 海外とのネットワーク強化

- ・ イスラエル等の既存連携先とのコミュニケーションを強化する
- ・ 新たな連携先を探索する

④ ベンチャー企業と既存企業や資金の出し手との連携促進

- ・ シード期ベンチャーの育成に向けた企業からの人的・財政的支援獲得の場を企画する
- ・ リバースピッチの継続開催、内容の充実を図る
- ・ 関西のベンチャーと首都圏や海外の投資家との出会いの場やピッチイベントを企画する 等

⑤ ベンチマークの設定

- ・ 関西独自の KPI を選定する（マッチングなどのイベント開催回数、それに伴う資金調達への寄与等）
等

3. 成果物・その他特記事項

- ・ 状況に応じリアル・オンラインの両方で関係者への積極的意見交換や情報共有を進める。
- ・ 未来社会とダイバーシティの観点から学生を含む若者の意見を積極的に聴きに行く。
- ・ 上記研究課題以外にもエコシステム活性化の要件について幅広く研究し実装に繋げる。
- ・ 企画内容に応じて、関西ブリッジフォーラム推進委員会とも連携して実施する。
- ・ 今年度の活動成果は活動報告書として取り纏め、本会会員や外部への情報発信に努める。

2. 活動一覧

2021 年 6 月 23 日	委員会会合 活動方針（案）の意見交換
2021 年 7 月 21 日	関西アカデミア発ベンチャーをキャッチせよ！阪大編
2021 年 9 月 6 日	第 3 回リバーСПitch Friendly Meet Up Kansai
2021 年 9 月 7 日	関西のキーパーソンが選ぶ、スタートアップピッチ
2021 年 10 月 29 日	大阪大学グローバルイニシアティブ機構 佐久間氏講演会
2021 年 12 月 17 日	関西アカデミア発ベンチャーをキャッチせよ！京大編
2022 年 1 月 25 日	ATR 発、世界へと突き進むスタートアップ
2022 年 1 月 27 日	学生起業家（Z 世代）によるピッチ及び意見交換
2022 年 3 月 1 日	委員会会合 活動報告書 骨子（案）の意見交換
2022 年 3 月 28 日	常任幹事会にて活動報告書 骨子（案）を審議
2022 年 4 月 18 日	第 4 回リバーСПitch Friendly Meet Up Kansai
2022 年 4 月 19 日	委員会会合 活動報告書 本文（案）の意見交換
2022 年 4 月 25 日	阪大共創機構発・起業家によるピッチ《壁打ち企画》
2022 年 4 月 26 日	幹事会にて活動報告書（案）を審議

各活動の詳細は P15-21 を参照

3. 今年度の成果 <実装課題への対応>

活動方針の実装課題に対しその解決に向けた具体的な活動、すなわち実装活動を今年度も推進した。

① 産官学連携促進

- ♦ 日本スタートアップ支援協会（JSSA）や大阪イノベーションハブ（OIH）、関西イノベーションイニシアティブ（KSII）などの各団体などと連携し、8回のピッチイベントを開催した。
- ♦ アカデミアとは、産学連携窓口団体であるKSIIを活用し、大阪大学、京都大学との連携を行った。
- ♦ 神戸経済同友会、京都経済同友会と連携し「関西ベンチャーフレンドリー宣言」参加企業・団体が、68社（2021年4月8日時点）から103社（2022年3月1日時点）へと35社増加。京阪神連携の基盤を構築した。

各活動の詳細はP15-21を参照

KSII詳細はP12を参照

② 対外発信力の強化

- ♦ これまでは同友会メンバー（会員、スタッフ）と「関西ベンチャーフレンドリー宣言」参加企業に限っていたイベント案内を、それ以外にも案内することでより対外的な発信の強化を目指した。具体的には、JSSAや日本ベンチャーキャピタル協会の会員向け配信、メガバンク系のベンチャーキャピタルによる取引先への紹介など、同友会内外の協力を得ることで発信源の多様化を図った。

同友会以外の参加者はP15-21

「主な外部参加者」を参照

③ 海外とのネットワーク強化

- ♦ 「関西のキーパーソンが選ぶ、スタートアップピッチ」と「ATR（国際電気通信基礎技術研究所）発、世界へと突き進むスタートアップピッチ」を開催し、海外スタートアップの登壇や、海外スタートアップに焦点をあてたピッチを実施した。4月に開催した「第4回リバーズピッチ Friendly Meet Up Kansai」にはイスラエルのスタートアップが多数参加した。
- ♦ ATR発ピッチにおいては、同研究所が持つグローバル連携ネットワークのおかげで、日本、イスラエル、カナダ、インド、スペインなど複数国からのベンチャー参加に繋がった。このように、既存の海外ネットワークを活用・強化した。

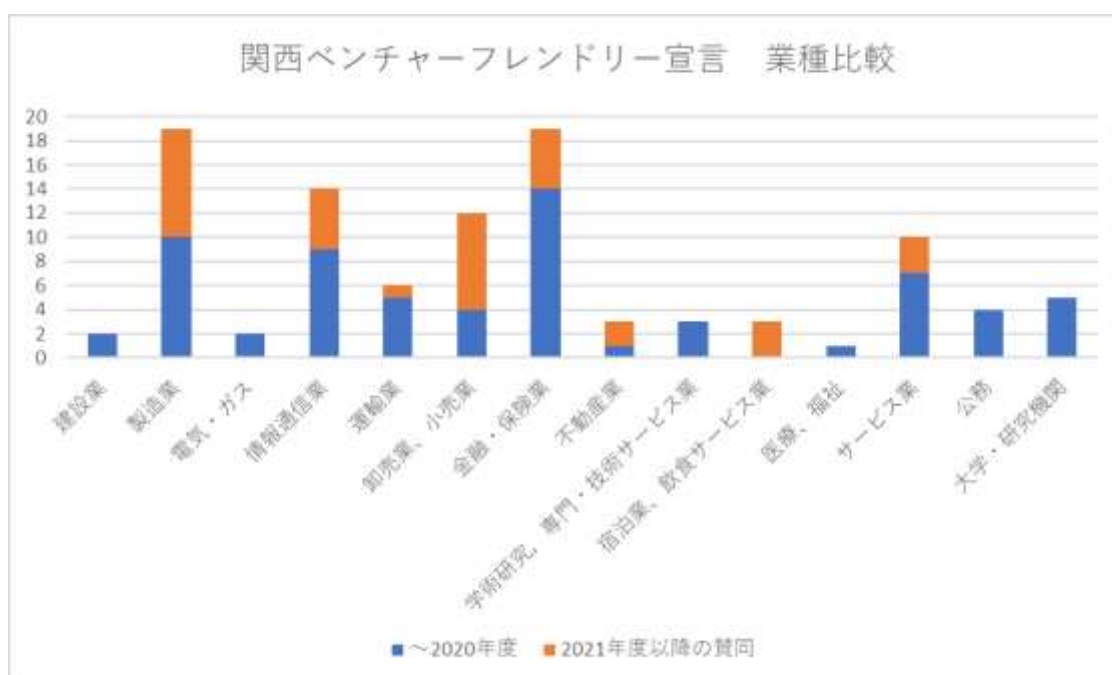
④ ベンチャー企業と既存企業や資金の出し手との連携促進

- ♦ 同友会メンバー以外にも門戸を広げ広く参加を呼びかけることで、東京や他地域に拠点をおく事業会社や金融機関、ベンチャーキャピタルなどの参加を得て、計8回のピッチイベント（マッチングの場）を通じ、延べ約800名の参加と個別会話81件の創出を実現した。（2022年4月26日時点）
- ♦ 「関西ベンチャーフレンドリー宣言」も今年度100社到達を目指して参加企業を募ってきたが、結果35社増の103社となり、これまでに参加のなかった宿泊業、飲食サービス業にも参加いただき、既存企業業種のバラエティが広がった。

今年度の活動実数一覧

活動数	委員会会合	ベンチャーピッチ	リバースピッチ	講演会	合計
	3 回	6 回	2 回	1 回	12 回
ピッチ登壇社数	ベンチャーピッチ		リバースピッチ		合計
	29 社		6 社		35 社
参加者数	日本から参加		海外から参加		合計
	約 770 名		約 30 名		約 800 名 ※1
個別会話数	ベンチャーピッチ		リバースピッチ		合計
	46 件		35 件		81 件 ※2

※1:オンライン開催のため参加者数に変動あり ※2:4月26日時点 当会把握ベース



⑤ ベンチマークの設定

- ◆ 今年度、委員会としてベンチマークを新たに設定することを課題に掲げた。具体的な活動や成果を鑑みると、イベントへの参加会社数、中でも新規参加の会社数や地域別会社数、参加人数、マッチングの実現数などが、今後のベンチマークとして適切と思われる。また次年度以降、「起業による雇用創出数」などエコシステム活性化において適切なベンチマークとは何か検討する。これら数値を継続的な測定することで実装活動の拡大や広域化を行う上での目安とする。

その他

- ◆ より若い世代の考え方を同友会活動に反映していくことも当委員会としての課題であった。
- ◆ この課題を念頭に、大阪大学グローバルイニシアティブ機構の佐久間氏による講演会（「2050 年からのバックキャストिंग」）や、学生起業家5名によるピッチと意見交換を実施した。未来社会を創造する若者たちの考えを聞く機会を同友会メンバーに提供できたと考える。

4. 活動を通して見えた問題

今年度の活動を通して見えた問題は、①ベンチャー企業側 ②同友会メンバーを含めた既存企業側 ③委員会並びに同友会事務局側 の3つに整理できる。

① ベンチャー企業側

1. 人材不足
2. 知財戦略の不足
3. 大きく育ちにくい
4. 関西地域以外への PR 不足
5. グローバル視点の少なさ
6. 資金調達額の限界
7. 似たようなピッチに呼ばれる回数が多い

② 同友会メンバーを含めた既存企業側

1. ピッチ参加企業の固定化
2. ピッチ後のフォローが難しい
3. 自社課題に合うベンチャーと出会えない

③ 委員会並びに同友会事務局側

1. 多様なベンチャー企業へのアクセス源の不足
2. 多様な既存企業へのアクセス源の不足
3. ピッチ後フォローアップなどのリソース不足

5. 各問題を受けた今後の対応策案

前述の各問題を取り組むべき課題に捉えなおし、①当委員会 ②エコシステム全体 の二方面で取り組む対応策案をまとめた。当委員会では次年度以降、これらの取り組みを通して関西エコシステムの普及発展に貢献していく。

① 当委員会として取り組む対応策案

①ー 1) 主にベンチャー企業向け

課題 1. 専門人材の育成、知財戦略の充実

【対応策】専門人材からの壁打ち・フィードバックに主眼を置いたピッチイベント開催

- ・ 今年度開催したピッチイベントでは、資金の出し手とのマッチングに焦点を当てた。これに加えて次年度は、壁打ち・フィードバックを主旨としたものも開催する。既存企業の財務や法務、営業担当者などの各見地をもとにベンチャー企業の事業内容などを磨き上げる。

課題 2. 資金調達力、PR 力の強化

【対応策①】壁打ちによる PR 力強化や人材のマッチング後押し

【対応策②】「関西ベンチャーフレンドリー宣言」の活用による PR 力強化

- ・ 世界では“カネ余り”の状態が続いていると言われ、当委員会でも同様の指摘があった。その中で資金を獲得するには、PR 力の強化や経営人材確保がカギと考える。来年度は資金の出し手とのマッチングのためのピッチイベントに加え、壁打ち・フィードバックを主旨としたピッチイベントを通して PR 力強化を狙う他、後述する PR 事業などの後押しを通じて、ベンチャー企業の資金調達力強化に貢献する。
- ・ 現在、「関西ベンチャーフレンドリー宣言」に記載されている既存企業担当者の多くはオープンイノベーションや新規事業の担当者である。これに加え、各事業部門の実務担当有志を対象としたミートアップ（小規模イベント）などを企画し、ベンチャー企業の PR スキルアップ向上に貢献する。但し事務局のリソースに限りがあるため、ベンチャー企業などによる自主企画・自主運営とし、委員会は支援に回る。

課題 3. スケールアップ促進、「グローバル視点」の導入

【対応策①】特定有望ベンチャーへの集中支援（“スーパーえこひいき”）

【対応策②】グローバルを知る勉強会開催

- ・ 国内ベンチャーの多くが 100～200 億円規模止まりでスケールアップが難しい。その理由として、成長を実現する組織組成の方法や、大きな組織の回し方の分かる経営人材の不足、そして、グローバルで成功する先事例が身近にないことが大きな要因となっている。
- ・ シード期を超え東証マザーズ上場¹を実現したスタートアップ、或いは上場を目指すスタートアップの中から有望と思われるものを特定し、集中的なピッチの機会の提供、資金の出し手や決裁スピードの速い中堅・中小企業などとのマッチングなどを行う。
- ・ また大きく育つには地域で満足せず、日本全体或いはより大きなグローバルマーケットを目指す志

¹ 2022 年 4 月 4 日以降は東証グロース市場

が必要だが、そのためにはより大きな市場やチャンスを感じる事がまずは必要である。委員会として、海外市場動向に通じた既存企業や、コンサルタントなどの専門家を招いた勉強会を開催し、生きたグローバル情報に触れる機会を作ること新たな展開を展望してもらう。またグローバルで成功するベンチャー企業経営者に話を聞くなど接点を持つ機会の提供を行う。

①－２）ベンチャー企業、既存企業 双方向け

課題４．参加企業の多様化

【対応策】既存企業／ベンチャー企業双方に魅力あるイベント開催

- リバースピッチは既存企業が自社の課題解決を目指しニーズを特定して行うが、それとは別で、例えば既存企業が推進するSDGsなどに関する主力事業を紹介し、関心のある既存企業・ベンチャー企業双方が集まるイベントを開催することで参加企業の拡大を図る。企業がその主力事業や中期経営戦略を説明することは、自社のPR、会員企業の相互理解、そして他社やベンチャーにとっても参考になり参加者も増えることが期待される。
- また、既存企業にとってベンチャー企業とのやりとりは、硬直化しがちな「企業文化の活性化」や刺激の場としても期待される。そこで当委員会として、リバースピッチ、ベンチャーピッチとならび、上記のイベントを大切な「場」として位置づけ引き続き同友会メンバーの積極参加を推進する。

課題５．ピッチ後フォローの充実

【対応策】直接交流する場の設置

- ベンチャー企業側、既存企業側どちらからも事務局がフィードバックを得る材料は主としてアンケート及びその後の個別メールとなるが、リソースに限りがありきめ細かいフォローには限界がある。
- コロナ収束後は、今年度開催出来なかった「ベンチャーフレンドリーディナー」など、当事者同士のface to face、膝をつき合わせるような形での情報交換や人脈形成の場を積極的に作る。

課題６．既存企業へのベンチャーソリューションの提供

【対応策】リバースピッチの継続開催

- 既存企業の課題解決に向け、引き続きリバースピッチを開催していく。企業にとって課題を整理、開示するには主催者にノウハウが必要である。継続して開催することでより洗練された課題開示につなげ、ベンチャーによるソリューションを促進する。また、前述の「ベンチャーフレンドリーディナー」などを通じて既存企業／ベンチャー企業が抱えるニーズのマッチングに繋げるのも方策である。

課題７．類似ピッチの解消

【対応策①】広域での連携強化

【対応策②】ベンチャー企業ニーズの実態把握（アンケート活用）

- 今年度は神戸ならびに京都などの他地域の同友会や各支援団体との連携のほか、関西経済連合会とのピッチ共催も図ったことで、効率化の一步となった。
- ピッチイベントが多いのは関西のエコシステム活性の表れと言える。そのなかで当会は、関西の経済団体として、大阪に留まらないより広域での連携強化を目指す。

- また、JETRO が実施²したベンチャー企業の実情を把握するアンケートなどを活用し、本当に必要な対応へと繋げる。

② エコシステム全体で取り組む対応策案

関西経済同友会、そして当委員会のみでは対応が難しい課題も多い。そうした課題については政府機関、地方自治体、支援組織、ファンドや各企業、アカデミアなど、様々なエコシステムプレーヤーとの連携で対応し、関西エコシステム全体を盛り上げていく。

課題 1. エコシステムに関する広域での情報発信の強化

【対応策】ポータルサイト「関西スタートアップ・エコシステム」

- 関西広域連合がスタートアップ関連情報ポータルサイト「関西スタートアップ・エコシステム」を昨年 11 月に開設した。
- スタートアップ企業に有益な各種支援情報はもとより大企業との実証事例やスタートアップイベント情報など、関西広域のスタートアップ関連の情報が、今後全てこちらに集約されていく。このポータルサイトを盛り上げることはエコシステム発展の要の一つとも考えられ、当委員会も連携、後押ししていく。

「関西スタートアップ・エコシステム」詳細は P13 を参照

課題 2. ベンチャー企業 PR スキルアップ

【対応策】PR 事業「REACH REACH」など

- 今年 1 月に立ち上がった毎日放送と博報堂、博報堂 DY メディアパートナーズがコラボした事業「REACH REACH」の活用を後押しする。放送局と広告会社を組み、PR、ブランディング、マーケティングなど発信力にかかわるノウハウをベンチャー企業に提供しプレゼンスキルの向上を支援するもので、ここで鍛えられたベンチャーが資金調達に成功した例も報告されているなど実効性がある。
- エコシステムの活性化には、各企業が得意分野を持ち寄り参画することが重要である。当委員会も各企業の取り組みやイベントを会員に紹介するなどし、活動を後押ししていく。

「REACH REACH」詳細は P14 を参照

課題 3. 関係者が交流する場の活用

【対応策】イノベーション拠点「QUINTBRIDGE」など

- ベンチャーエコシステムにおいて必要なのが「関係者が交流する場」である。既存の OIH や今後開発が進むうめきた 2 期に加え、NTT 西日本が「QUINTBRIDGE」という関西最大級のオープンイノベーション拠点を今年 3 月にオープンした。
- こうした場も同友会メンバーに紹介したり活用したりすることで、エコシステムのすそ野を広げる。

「QUINTBRIDGE」詳細は P14 を参照

課題 4. ベンチャー企業経営者と既存企業経営者の交流

【対応策】関西ブリッジフォーラム推進委員会（KBF）

- 当会関西ブリッジフォーラム推進委員会（KBF）はベンチャー企業と既存企業の経営者同士の交流、相互の学びの場として活動し協業の実績も生まれている。当委員会も引き続き KBF と連携していく。

² 京阪神スタートアップ調査（実施期間 2022 年 1 月～ 2022 年 2 月末）

課題5. 産学連携における橋渡し人材の育成、経営人材の確保

【対応策】関西イノベーションイニシアティブ（KSII）

- ♦ 大学発ベンチャーの成長には大学のシーズや研究成果を分かり易く“翻訳”し、産業界へ橋渡しする人材が不可欠である。関西では KSII などを中心となり、各大学のシーズの取り纏めや情報発信、産業界との連携を行ってきた。
- ♦ 当委員会も引き続き KSII と連携し、橋渡し人材育成や経営人材の確保について産業界側で出来る対応を行っていく。

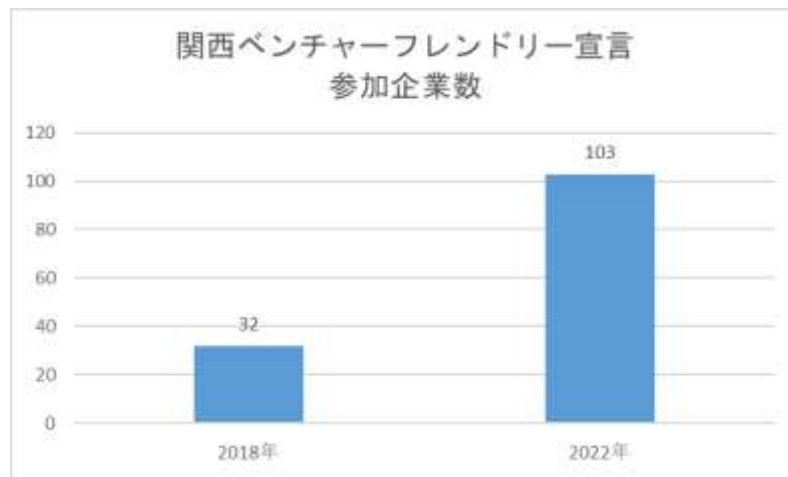
6. 関西エコシステム概況

① 数字で見る関西

関西地域のエコシステム活性化を一部示す数値を記載



※日経テレコンの新聞（日経各紙、全国紙、一般紙、専門紙、スポーツ紙・タ刊紙）、雑誌（ビジネス総合、金融・マネー）、一般雑誌（IT・ネット・PC）から「関西 スタートアップ」キーワード検索で当会集計



INITIAL「2021 上半期 Japan Startup Finance 国内スタートアップ資金調達動向」の「地域別の資金調達額推移」より当会集計

② 2021 年度トピックス

関西地域のイノベーション関連に関する主な出来事を記載

関西イノベーションイニシアティブ（KSII）

2020 年度、経済産業省の産学融合先導モデル拠点創出プログラム第 1 回採択事業として認定された、関西イノベーションイニシアティブ（KSII）は本年度から本格活動を開始。大学発の研究シーズやベンチャーと産業界とのマッチングなどの交流の場づくり、産学交流で生まれた協業アイデアの社会実装に向けた場づくり、産学共創を支える高度人材ネットワークの形成、産学双方の価値観を持つ橋渡し人材の育成、成果の国内外への情報発信、などの取り組みを実施する。



◆ KGI (Key Goal Indicator)

近畿圏発ゼブラの創出数 10 件

（ゼブラ：持続可能な成長により地域の社会課題を解決するベンチャー企業）

達成時期 2024 年度終了時

◆ KPI (Key Performance Indicator)

産業界と大学発ベンチャー等のマッチング件数 100 件

うち産業界からのアクセラレーション件数 30 件

達成時期 2024 年度終了時

京阪神スタートアップアカデミア・コアリション（KSAC）

京阪神スタートアップ アカデミア・コアリションは、科学技術振興機構（JST）が進める「大学・エコシステム推進型 スタートアップ・エコシステム形成支援」における 2021 年の採択事業。大学から生まれる優れた技術シーズの実用化や、アントレプレナーシップを備える人材の育成を強力に支援し、コロナ後の社会変革や社会課題解決につながる社会的インパクトの大きいスタートアップが持続的に創出される体制を構築

することを目的としている。関西地域の 15 大学に加え、産業界、金融界、官公庁から 41 機関が参画。参画大学教職員あるいは大学院生が事業化に向けた研究開発を実施し、その技術シーズを基にした、起業や「大学発新産業創出プログラム（START）」への申請をめざすプログラムで、採択された研究開発課題には、GAP ファンドが支給され、起業活動支援評価委員会が選任した専任支援人材がサポートする。



◆ KGI (Key Goal Indicator)

（起業活動支援・アントレ教育・起業環境整備・エコシステム形成活動を統合的に進めることで、「大阪・京都・ひょうご神戸コンソーシアム」が目指すビジョンの実現に貢献）

◆ KPI (Key Performance Indicator)

90 社以上の大学発スタートアップ創出 他

バイオコミュニティ関西 (BiocK)

2021年7月、持続可能な社会実現のため、バイオフィーストの発想を広げ、国際都市型バイオコミュニティの形成を目指すというビジョンの元、関西を拠点にバイオ分野における究極のエコシステムをつくるというゴールを目指し設立。バイオ、メディカル等に関する複数の専門分科会を立ち上げ、またスタートアップ分科会でそれらの横串し機能を担い全体の推進を図る。



分科会構成

2022年2月1日現在

分科会名称	社会課題分野	取組内容	リーダー・協賛	備考
バイオエタン分科会	環境・エネルギー	エネルギーのカーボンニュートラル化	大阪ガス株式会社	
プラスティック分科会	環境・エネルギー	バイオプラスティック	サンプラセ株式会社	
メンタルヘルス分科会	ヘルスケア	社会生産性の向上	造野製薬株式会社	
スマートカルチャー分科会	持続的・一次生産システム	一次産業におけるバイオ機能の拡大適用	サンマーホールディングス株式会社	
スタートアップ分科会	スタートアップ支援	関西におけるスタートアップ支援	株式会社三井住友銀行	
ゼッゾデータヘルス分科会	全職	バイオデジタル	NPO法人バイオラボセンター関西	
デジタルバイオヘルス分科会	ヘルスケア	総合健康産業都市	国立循環器病研究センター研究所	JST共創の場
フォトニクス生命工学分科会	ヘルスケア	フォトニクス生命工学	大阪大学	JST共創の場
フードロス分科会	持続的・一次生産システム	革新的低フードロス創出	大阪大学	JST共創の場
未来型都市分科会	持続可能社会	未来型知的インフラモデル発信	大阪大学	JST共創の場
バイオマス分科会	カーボンニュートラル	バイオマス技術によるカーボンゼロエミッションの実現	東京農工大学	JST共創の場
細胞製造分科会	再生医療	細胞製造エコシステムの構築	大阪大学	AMED
モダリティー分科会	ヘルスケア	抗体・遺伝子治療製品・ワクチン製造	次世代バイオ医薬品製造技術研究組合(MAB組合)	AMED・NEDO
ホワイトバイオ分科会	ホワイトバイオ関連	バイオアウフンリ事業	大阪大学(代表世話人)	NEDO

新たな分科会の中核機能を担う「企業」・「産学官連携プロジェクト」募集中

- ◆ KPI (Key Performance Indicator)
今後設定予定

「関西スタートアップ・エコシステム」(関西広域連合)

関西スタートアップ・エコシステムの魅力、ポテンシャル、将来性を国内外へ発信し、国内外の様々なリソースの集積を可能とする日本有数の研究開発型スタートアップの地「ディープテックバレー“KANSAI”」をブランドとして確立することで、関西経済の活性化、持続的な経済成長を目指す。その情報発信事業の一環として、ポータルサイト「関西スタートアップ・エコシステム」を2021年11月にオープン。本ポータルサイトを関西スタートアップ・エコシステムの総合窓口とし、京阪神グローバル拠点都市をはじめとした各構成府県市の支援情報、関西発スタートアップの情報、イベント情報やコミュニティの情報など多彩なコンテンツにより国内外のメディアに対し、情報発信の強化を図る。



(出典:KANSAI スタートアップ・エコシステム ポータルサイト)

- ◆ KPI (Key Performance Indicator)

スタートアップDB等有力データベースへの関西スタートアップの登録累計150社
スタートアップ英語情報の登録(Crunchbase等への下期登録) 累計100社
達成時期 2024年度

Kansai Future Summit (KFS)

関西から世界を席巻する企業を輩出し、世界に認知され、世界と繋がるイノベーション地域にするために、産官学の関西のリーダーが集い、ネットワークを構築することで新たな産業発展に寄与するきっかけづくりを目指すイベント。2019年の初開催は大阪、2年目は京都、3年目の今年は神戸で開催され過去最多の約500名が参加した。



「QUINTBRIDGE」(西日本電信電話)

西日本・大阪 京橋から企業・スタートアップ・自治体・大学など、志を同じくするパートナーと共に『業界・地域課題の解決』と『未来社会の創造』をめざすオープンイノベーション施設。2022年3月、西日本電信電話(株)が開設。事業創造のための多彩な教育プログラム、西日本各地のオープンイノベーション組織との連携、50以上の地域包括協定による社会実装フィールドなど、『学び・繋がり・集う・共創する』機会を提供し、つながりでWell-beingを実感できる社会をパートナーの皆さまと共に実現していく。



「REACH REACH」(毎日放送×博報堂×博報堂DYメディアパートナーズ)

関西ベンチャー企業共通の課題である「発信力不足」を支援するべく、2022年1月に(株)毎日放送(MBS)と(株)博報堂、(株)博報堂DYメディアパートナーズが立ち上げたプロジェクト。長年関西から情報を発信してきたMBSと、「生活者発想」「パートナー主義」で広告・マーケティング業界を牽引してきた博報堂、博報堂DYメディアパートナーズの3社がリソースを持ち寄り、会員企業に発信力を身に付けてもらうことを目指す。また協力団体との連携を通じて、その他のベンチャー企業にも知見を共有していく。会員対象社は関西にゆかりのあるベンチャー企業、中小企業の新規事業。



◆ 主な支援内容

- ・MBSのテレビプロデューサーらによる月1回のPRメンター相談会
- ・博報堂によるブランディング・マーケティング相談
- ・博報堂DYメディアパートナーズによるメディアプランニング相談
- ・特別ゲストを迎えたセミナーや交流会の開催
- ・3社のネットワークを活かした各業界とのビジネスマッチング など

7. 委員会活動状況

タイトル	委員会会合
開催日	2021 年 6 月 23 日（水）
内容	2021 年度 活動方針の意見交換
実装課題対応	—
参加者数	72 名
見えてきた課題	【産学連携における課題】 ・ 大学発ベンチャーにおける「経営人材」の不足 ・ 財務経理、法務、海外営業などの「脇を固められる」人材が大学に少ない ・ 大学で研究した技術シーズを事業化・商品化するアイデアが不十分 ・ 産業界が研究された技術シーズを深く理解しにくい 【スタートアップが抱える課題】 ・ 実績、信用不足による販促能力／人材採用力／資金調達力の不足 ・ ベンチャー側の CEO が大企業との付き合いに慣れていない ・ 知財戦略が不足している 【関西のエコシステムが抱える課題】 ・ 関西の域外への PR 不足、地域版への掲載になりがち ・ 関西だと資金調達額に限界がある ・ 各団体や企業によるベンチャー施策がバラバラである 【既存企業、支援者側の課題】 ・ 多くの VC がベンチャーに対して早めの EXIT を求めるため、ベンチャーが大きく育たない ・ 大手企業意思決定プロセスがベンチャーと比べて遥かに遅い

タイトル	関西アカデミア発ベンチャーをキャッチせよ！ ～産業界必見シード一挙公開＜大阪大学編＞～	
開催日	2021 年 7 月 21 日（水）	
内容	大学発ベンチャー（シーズ）の紹介・意見交換	
実装課題対応	①産官学連携促進、④既存企業や資金の出し手との連携促進	
講師	公益財団法人都市活力研究所 専務理事 生井 昌樹 氏 関西イノベーションイニシアティブ エリアコーディネーター 若井 哲 氏 大阪大学共創機構イノベーション戦略部門機構長補佐・部門長 教授 北岡 康夫 氏	
紹介シーズ	1. アイボア株式会社 （人工知能を使った IoT ナノ粒子センサデバイスと測定器の販売、および AI 解析ソフトウェアの提供） 2. PGV 株式会社 （手のひらサイズの高性能パッチ式脳波計の開発と脳波データを用いたプラットフォーム事業の展開） 3. 株式会社コトバデザイン （自然言語処理、対話制御、音声・音響処理、文章アノテーションの技術開発） 4. キュエル株式会社 （独自アーキテクチャ量子コンピュータ制御装置の開発） 5. 株式会社 JiMED （ALS 患者向けの埋込型 BMI（脳波によってデバイスを操作する装置）の開発・製造）	
参加者数	95 名	
個別会話数	15 件 （当会把握ベース）	
連携団体	1. 関西イノベーションイニシアティブ（KSII） 2. 大阪大学共創機構イノベーション戦略部門	
見えてきた課題	・ ベンチャー企業における人材不足（CXO 人材、営業人材など） ・ ベンチャー企業のグローバル展開（海外 VC やアクセラレーターと接点が少ない） ・ ピッチ視聴企業の固定化（ピッチ参加のハードルの高さ） ・ ベンチャー企業の実績・進捗状況の見える化 ・ ピッチ後のフォローアップ	

タイトル	第3回リバーズピッチ Friendly Meet Up Kansai	
開催日	2021 年 9 月 6 日 (月)	
内容	リバーズピッチイベント	
実装課題対応	①産官学連携促進、②対外発信力強化、 ④既存企業や資金の出し手との連携促進	
ピッチ登壇者	1. ダイキン工業株式会社 CVC 室 岡田 光正 氏 (課題:CO2 の回収・固定・再利用、冷媒ガスのサーキュラーエコノミーの実現 等) 2. 南海電気鉄道株式会社 まち共創本部企画部 粉川 純一 氏 (課題:沿線価値を向上させる”なんかいいまち”づくり、南海なんば駅前広場の利活用 等) 3. 日本生命保険相互会社 Nippon Life X 遠藤 和宏 氏 (課題:保険 DX、新規の少額短期保険の展開、デジタル保険 等)	
参加者数	170 名	
個別会話数	35 件 (当会把握ベース)	
主な外部参加者	・ Monozukuri Ventures ・ パワーアシストインターナショナル ・ Rainmaking Innovation Japan LLC ・ イスラエル大使館 経済部 ・ Code for OSAKA 他	
連携団体	1. 一般社団法人日本スタートアップ支援協会 (JSSA) 2. 公益財団法人大阪産業局／大阪イノベーションハブ (OIH) 3. 株式会社 Human Hub Japan (HHJ) 4. 大阪スタートアップ・エコシステムコンソーシアム 5. 京都スタートアップ・エコシステム 6. ひょうご神戸スタートアップ・エコシステムコンソーシアム 7. 株式会社日本政策金融公庫 8. デロイト トーマツ ベンチャーサポート株式会社	
見えてきた課題	・ 大企業側において課題を整理・開示することの難しさ ・ ベンチャーへのアプローチ方法 (どこに、どんなベンチャーがいるか) ・ 参加するベンチャー企業の多様性確保 (国、地域、業種など) ・ ピッチ後のフォローアップ	

タイトル	関西のキーパーソンが選ぶ、 スタートアップピッチ ～実証実験パートナー募集中！～ 
開催日	2021 年 9 月 7 日（火）
内容	関西発ベンチャーピッチイベント
実装課題対応	①産官学連携促進、②対外発信力強化、④既存企業や資金の出し手との連携促進
講師 （キーパーソン）	株式会社 Human Hub Japan 代表 吉川 正晃 氏 一般社団法人日本スタートアップ支援協会 代表 岡 隆宏 氏 公益財団法人大阪産業局／大阪イノベーションハブ 統括プロデューサー 長川 勝勇 氏 阪急阪神不動産株式会社 都市マネジメント事業部長 高岸 実良 氏
ピッチ登壇者	1. 株式会社アースクリエイト 代表取締役社長 西宮 祥行 氏 （国産炭酸カルシウムを主原料とした「STONE-SHEET®」普及に向けた活動を展開） 2. 株式会社アロマジョイン 代表取締役社長 金 東煜（キム ドンウク）氏 （世界初のデジタル香りコントロール装置を開発） 3. 大阪ヒートクール株式会社 代表取締役 伊庭野 健造 氏 （冷温感覚のインターフェースを開発し、触覚の完全再現を実現） 4. quatre 株式会社 代表取締役 横町 享之 氏 （福利厚生サービス「エアブレ」を展開） 5. CRUST Group, Operations Manager, Josh Grengs 氏 （余剰となった食品を原料としたクラフトビールの製造・販売） 6. 株式会社 Replace 代表取締役 中谷 タスク氏 （遊休地を屋台でシェアする日本初のマッチングサービス「STAND3.0」の展開）
参加者数	70 名
個別会話数	23 件 （当会把握ベース）
連携団体	1. 株式会社 Human Hub Japan (HHJ) 2. 一般社団法人日本スタートアップ支援協会 (JSSA) 3. 公益財団法人大阪産業局／大阪イノベーションハブ (OIH)
見えてきた課題	・ ベンチャーへのアプローチ方法（どこに、どんなベンチャーがいるか） ・ 大企業側へのアプローチ方法 ・ ベンチャー側のニーズと大企業側のニーズの「粒度」の相違 ・ 大企業側のベンチャー協業受け入れ姿勢 ・ ピッチ後のフォローアップ

タイトル	2050 年からのバックキャスティング ～歴史的転換期のイノベーションとエコシステム～ 
開催日	2021 年 10 月 29 日（金）
内容	若者との対話・講演会
実装課題対応	⑤若者との対話
講師	大阪大学 グローバルイニシアティブ機構招へい研究員 佐久間洋司氏
参加者数	77 名
見えてきた課題	・ ビジョンドリブン、バックキャストで考える経済人が少ない ・ 企業で 30-50 年超の長期目線を持つことが難しい（経営計画の期間の短さ）

タイトル	関西アカデミア発ベンチャーをキャッチせよ！ ～産業界必見シードー拳公開《京都大学編》～	
開催日	2021 年 12 月 17 日（金）	
内容	大学発ベンチャーピッチイベント・意見交換	
実装課題対応	①産官学連携促進、②対外発信力強化、④既存企業や資金の出し手との連携促進	
講師	京都大学産官学連携本部（SACI）本部長 室田 浩司 氏	
ピッチ登壇者	1. 京都フュージョニアリング株式会社 代表取締役社長 長尾 昂 氏 （核融合発電の実用化・商用化を目指す） 2. Symbiobe 株式会社 代表取締役 後圭介氏 （海洋性光合成細菌を用いた温室効果ガスの固定化） 3. エネコートテクノロジーズ株式会社 代表取締役 加藤尚哉氏 （薄膜・多用途対応の次世代型太陽電池） 4. 株式会社ミツカリ 代表取締役社長 CEO 表 孝憲 氏 （会社、組織のミスマッチ予測による早期離職の防止） 5. 株式会社 LegalForce 取締役 COO 川戸 崇志 氏 （AI 契約審査プラットフォームによる契約書のリスク発見システム）	
参加者数	95 名	
個別会話数	2 件 （当会把握ベース） ※アンケート機能不具合のため、十分なマッチングが出来ず	
主な外部参加者	・ 村田機械 ・ ユニコーン ・ SMBC ベンチャーキャピタル ・ 三菱 UFJ キャピタル ・ 富士フィルムホールディングス ・ みずほキャピタル ・ SMBC 日興証券 他	
連携団体	1. 関西イノベーションイニシアティブ（KSII） 2. 一般社団法人京都経済同友会 スタートアップ・エコシステム研究委員会	
見えてきた課題	・ 大学と民間を結びつける組織が日本に無い（例：アメリカにおける SRI） ・ ベンチャーと既存企業が繋がりやすい「出島」が少ない ・ ディープテックを一般マーケットに分かり易く「翻訳」することの重要性（「翻訳家」が必要） ・ 大学/研究機関の情報開示体制（産業界との連携） ・ ピッチ後のフォローアップ ・ ピッチ視聴企業の固定化（ピッチ参加のハードルの高さ）	

タイトル	ATR 発、世界へと突き進む スタートアップとは？ ～KGAP+ Batch6 から6社登壇～	
開催日	2022 年 1 月 25 日 (月)	
内容	海外ベンチャーピッチイベント	
実装課題対応	①産官学連携促進、④既存企業や資金の出し手との連携促進	
講師	株式会社国際電気通信基礎技術研究所 代表取締役専務 経営統括部長・事業開発室長 鈴木 博之 氏	
ピッチ登壇者	1. Deep Learning Robotics (イスラエル) CEO Carlos Benaim 氏 (人間がタスクを実行している所を観察することで学習し再現するロボットを開発) 2. Dyze Design (カナダ) マーケティング責任者 Simon Duchaine 氏 (3D プリンターの心臓部として原材料供給と蒸着を制御し使い勝手を上昇させるシステムを開発) 3. GenCell Ltd. (イスラエル) アフリカ・太平洋担当セールスディレクター Audie Allan Austria 氏 (既存方法の 10 倍の効率で非白金触媒と液体アンモニアから水素を抽出するソリューションを開発) 4. Linearity (日本) 取締役 Lao Shihong 氏 (垂直方向に限らず様々な動き方を実現できるエレベーター用のリニアモータードライブを開発) 5. OWO (スペイン) コミュニケーション責任者 Sheyna Garicano 氏 (ビデオゲーム等の仮想世界に新たな感覚「触覚」を加えられるベストを開発) 6. QNu Labs Private Limited (インド) 事業拡大責任者 Rahil Patel 氏 (データ保管の安全性を高める、量子鍵セキュリティシステムを開発)	
参加者数	140 名	
個別会話数	4 件 (当会把握ベース)	
主な外部参加者	- Google - 在大阪・神戸インド総領事館 - みずほキャピタル - JETRO Toronto - SMBC ベンチャーキャピタル - ケベック州政府在日事務所 他	
連携団体	1. 株式会社国際電気通信基礎技術研究所 (ATR) 2. 公益社団法人関西経済連合会 ベンチャー・エコシステム委員会 3. 一般社団法人日本スタートアップ支援協会 (JSSA)	
見えてきた課題	既存企業側が、海外ベンチャー企業との連携に慣れていない	

タイトル	”学生起業家(Z世代)との意見交換“	
	～なぜ起業したのか？	
	今のエコシステムに足りない要素とは？～	
開催日	2022年1月27日(木)	
内容	若者との対話・意見交換	
実装課題対応	①産官学連携促進、④既存企業や資金の出し手との連携促進、⑤若者との対話	
ピッチ登壇者	1. 株式会社Plala 代表取締役 原田 瑞穂 氏 (関西学院大学社会起業学科 所属) (「SDGs ダイアリー」制作を通じたソーシャルプロダクト開発事業 等) 2. OYA OYA 代表 小島 怜 氏 (京大起業部 所属) (中山間地域農業の課題解決に向けた乾燥野菜の販売 等) 3. 京もの屋 SEKIROKU 代表 高永 雅人 氏 (京大起業部 所属) (京都の伝統工芸保護を目指した柿渋マスクの販売 等) 4. 株式会社 EN ロジカル 代表取締役 廣瀬 哲人 氏 (京大起業部 所属) (効率的な学習をサポートのためのオンライン個別指導塾「となりこーち」の企画・運営 等) 5. 株式会社カタルシス CEO 山本 周雅 氏 (自らの想いや人生観を自由に「語る」ことのできる空間「Katharsis」の運営 等) 6. 京都大学起業部 代表 柳本 頌大 氏 (京都大学経営管理大学院在学中にブロックチェーン事業で起業。2019年に京大起業部を創部)	
参加者数	48名	
個別会話数	2件 (当会把握ベース)	
連携団体	1. 京都大学起業部	
見えてきた課題	・ 新しい起業(事業)の形とこれまでの経済界のすり合わせ	

タイトル	委員会会合
開催日	2022年3月1日(火)
内容	報告書(骨子案)についての意見交換
実装課題対応	—
参加者数	42名
見えてきた課題	・ コロナ禍で停滞していた海外ベンチャーとのネットワーキング ・ ユニコーンを目指すベンチャーが少ない ・ グローバル規模で成功したロールモデルが関西にいない ・ ミドル・レイター以降の「組織作り」 ・ 大企業とスタートアップの人材交流 ・ 中堅企業とスタートアップの連携促進 等

タイトル	第4回リバーズピッチ Friendly Meet Up Kansai	
開催日	2022 年 4 月 18 日 (月)	
内容	リバーズピッチイベント	
実装課題対応 ピッチ登壇者	①産官学連携促進、②対外発信力強化、④既存企業や資金の出し手との連携促進 1. 近鉄ベンチャーパートナーズ株式会社 部長 足高 寛俊 氏 (課題:テクノロジーを活用した地域コミュニティの再構築、地場産業の創出、移動のエンターテインメント化 等) 2. 住友生命保険相互会社 上席執行役員兼新規ビジネス企画部長 藤本 宏樹 氏 (課題:子育て、Well-Aging のサポートや、疾病管理サービス(予防、リハビリ等)の共創パートナーの探索 等) 3. 西日本旅客鉄道株式会社 ビジネスデザイン部次長 和田 裕至 氏 (課題:コロナによる社会変容に対応した新サービス創出、デジタルによる新たな鉄道ファンビジネス創出 等)	
参加者数	176 名	
個別会話数	XX 件 (4/26 時点未確認)	
連携団体	1. 一般社団法人日本スタートアップ支援協会 (JSSA) 2. 株式会社 Human Hub Japan (HHJ) 3. 公益財団法人大阪産業局／大阪イノベーションハブ (OIH) 4. 大阪スタートアップ・エコシステムコンソーシアム 5. 京都スタートアップ・エコシステム 6. ひょうご神戸スタートアップ・エコシステムコンソーシアム 7. 株式会社日本政策金融公庫 8. デロイト トーマツ ベンチャーサポート株式会社	
見えてきた課題	・ 海外スタートアップと連携する際の、各種前提条件を埋めることの難しさ ※その他 第3回リバーズピッチ Friendly Meet Up Kansai を参照	

タイトル	委員会会合
開催日	2022 年 4 月 19 日 (火)
内容	報告書 (本文案) の取り纏め
実装課題対応	—
参加者数	43 名
見えてきた課題	—

タイトル	阪大共創機構発・起業家によるピッチ<<壁打ちメンバー募集！>>
開催日	2022 年 4 月 25 日 (月)
内容	阪大共創機構発・起業家によるピッチ
実装課題対応 講師	①産官学連携促進、④既存企業や資金の出し手との連携促進、⑤若者との対話 大阪大学共創機構 人材インキュベーション部門長 特任教授 (大阪大学 2025 年国際博覧会推進室 副室長) 新藤 一彦 氏
ピッチ登壇者	eMotto 株式会社 代表取締役 三田 真志郎 氏 eMotto 株式会社 マーケティング部門 三田 善志郎 氏
参加者数	15 名
個別会話数	XX 件 (4/26 時点未確認)
連携団体	大阪大学共創機構人材インキュベーション部門
見えてきた課題	—

タイトル	幹事会報告
開催日	2022 年 4 月 26 日 (火)
内容	幹事会で「グローバル・ベンチャーエコシステム委員会 2021 年度活動報告書」を審議

8. 終わりに・来期以降の活動に向けて

当委員会が設置されて今年度で6年目となった。その間、提言する委員会から自ら活動する委員会へと、その軸足を実装活動に移していく中で、関西のみならず日本各地域や海外の関係機関、団体などとの連携を強化し、着実に活動を進める足場を築いてきた。期初に掲げた方針に基づき、関係各位にご協力を頂きながら月に1回ペースで様々なイベントを企画実行してきたが、活動を通して見えてきたのは未だ取り組むべき課題は山積しているということである。本報告書でも述べた通り、それら課題に当たるには当委員会や当会のみで対処でき得るものではなく、関係者と密に連携を取りながら、それぞれの得意とする領域や方法で実装活動を進めていくことが肝要である。当会ならではの強みと関西地域の特色を生かしつつ、一段上を目指したい。

関西から数多くのベンチャーが生まれ育ち、既存企業と共に未来社会を構築する真のエコシステム形成に向け、来期以降も精力的に活動を行っていく。

9. 謝辞

本年度の活動推進に当たりましては、多くの関係機関、団体、企業の皆様にご協力を賜りました。
とりわけイベント開催にあたり以下の皆様にひとかたならぬご支援を頂きました。

ここに厚く御礼申し上げます。

大阪イノベーションハブ 長川統括プロデューサー、事務局皆様

(公財) 大阪産業局 齊藤常務理事、スタートアップエコシステムコンソーシアム事務局皆様

(一社) 京都経済同友会 馬屋原理事事務局長、梁瀬事務局課長、事務局皆様

京都大学起業部 柳本代表

(一社) 神戸経済同友会 富田常務理事事務局長、堂本事務局次長、真鍋調査役

(株) 国際電気通信基礎技術研究所 鈴木代表取締役専務、辰巳担当部長、中嶋担当部長、事務局皆様

デロイトトーマツベンチャーサポート(株) 柘植様、白石様

(公財) 都市活力研究所 生井専務理事、若井主席研究員、高岸客員研究員、関西イノベーションイニシアティブ
事業 担当皆様

(一社) 日本スタートアップ支援協会 岡代表

(株) Human Hub Japan 吉川代表

(五十音順・肩書は面談時)

関 西 経 済 同 友 会
グローバル・ベンチャーエコシステム委員会
委 員 長 鈴 木 善 久

10. 2021 年度 グローバル・ベンチャーエコシステム委員会 名簿

(2022 年 4 月 26 日現在・敬称略)

区分	会員名	会社名	役職
委員長	鈴木 善久	伊藤忠商事(株)	副会長
委員長代行	石川 智久	(株)日本総合研究所	調査部 マクロ経済研究センター所長
副委員長	遠北 光彦	南海電気鉄道(株)	代表取締役社長
副委員長	安藤 慎吾	Plug and Play Japan	Director, Osaka
副委員長	池田 敏男	(株)三井住友銀行	理事 大阪ソリューションユニット長
副委員長	岡本 泰彦	ライク(株)	代表取締役社長 兼 グループ CEO
副委員長	沖中 進	朝日放送グループホールディングス(株)	代表取締役社長
副委員長	垣内 俊哉	(株)ミライロ	代表取締役社長
副委員長	片岡 和行	(株)池田泉州銀行	特別顧問
副委員長	黒田 雅美	有限責任監査法人トーマツ	パートナー
副委員長	佐相 宏尚	ケンブリッジコンサルティング(株)	代表取締役社長
副委員長	三条 寛和	三菱電機(株)	執行役員 関西支社長
副委員長	渋谷 順	(株)スマートバリュー	取締役兼代表執行役社長
副委員長	白井 博志	(株)博報堂	顧問
副委員長	白川 基光	ソブラ(株)	代表取締役社長兼 CEO
副委員長	白波瀬 章	西日本電信電話(株)	執行役員 技術革新部長
副委員長	関口 暢子	(株)ダスキン	社外取締役
副委員長	高橋 孝一	ダイキン工業(株)	専務執行役員
副委員長	多賀谷 実	日本ベンチャーキャピタル(株)	代表取締役社長
副委員長	立野 純三	(株)ユニオン	代表取締役社長
副委員長	田中 邦裕	さくらインターネット(株)	代表取締役社長
副委員長	谷井 等	シナジーマーケティング(株)	取締役会長
副委員長	中西 竜雄	中西金属工業(株)	代表取締役社長
副委員長	中野 智哉	(株)i-plug	代表取締役 CEO
副委員長	西村 綱木	アンダーソン・毛利・友常法律事務所	大阪オフィス代表
副委員長	長谷川 恵一	学校法人 エール学園	理事長
副委員長	長谷川 友安	(一財)大阪科学技術センター	専務理事
副委員長	藤城 豪二	(株)みずほ銀行	副頭取執行役員
副委員長	舩田 元彦	富士通Japan(株)	関西・中四国エリア本部長
副委員長	三津家 正之	田辺三菱製薬(株)	相談役
副委員長	三宅 潔	有限責任あずさ監査法人	パートナー／公認会計士
副委員長	宮松 寛有	KAHM ジャパン(株)	代表取締役
副委員長	森下 竜一	アンジェス(株)	顧問
副委員長	諸富 隆一	阪急電鉄(株)	取締役
副委員長	山崎 修一	(株)アウトオフィス	取締役会長
副委員長	山本 裕計	アイクラフト(株)	代表取締役
副委員長	若林 常夫	阪急電鉄(株)	顧問
委員	新井 裕	(株)日本経済新聞社	常務執行役員 大阪本社代表
委員	荒川 哲男	公立大学法人 大阪	副理事長兼大阪市立大学 学長

委員	井垣 太介	西村あさひ法律事務所	法人社員・弁護士・ニューヨーク州弁護士
委員	伊東 昌一	有限責任監査法人トーマツ	パートナー
委員	大脇 晋	(株)レスタス	代表取締役
委員	岡本 武	住友商事(株)	国内業務企画部 関西財界担当部長
委員	河西 裕二郎	(株)乃村工藝社	エグゼクティブ・フェロー 事業統括本部 営業推進本部 近畿事業部長
委員	北野 良祐	(株)ビズリーチ	関西支社長
委員	熊谷 克彦	(株)大広	取締役常務執行役員 大阪本社代表
委員	坂下 智保	富士ソフト(株)	代表取締役 社長執行役員
委員	佐藤 義雄	住友生命保険(相)	特別顧問
委員	白川 正彰	近鉄グループホールディングス(株)	取締役専務執行役員
委員	鈴木 大輔	(株)アートローグ	代表取締役 CEO
委員	住岡 裕一	(株)ジェイ エイ シー リクルートメント	エグゼクティブ ディビジョン 部長
委員	立松 博	三井住友海上火災保険(株)	専務執行役員
委員	田中 宏岳	大江橋法律事務所	パートナー 弁護士
委員	田ノ畑 好幸	(株)竹中工務店	専務執行役員
委員	田村 太郎	(一財)ダイバーシティ研究所	代表理事
委員	辻本 希世士	辻本法律特許事務所	所長
委員	寺田 政登	アート引越センター(株)	代表取締役社長
委員	利倉 一彰	日光化成(株)	代表取締役社長
委員	豊島 俊弘	(株)マーキュリアインベストメント	代表取締役
委員	中務 裕之	中務公認会計士・税理士事務所	所長
委員	中村 誠司	Team Energy(株)	代表取締役
委員	新田 竜兵	Sansan(株)	西日本営業部 副部長兼関西支店長
委員	野々村 一志	西日本旅客鉄道(株)	デジタルソリューション本部 ビジネスデザイン部長
委員	長谷川 大貴	(株)エクサウィザーズ	事業統括部 AI プラットフォーム西日本事業部 事業部長
委員	フォーリー 淳子	大同門(株)	代表取締役社長
委員	藤 勝行	(株)エックスラボ	代表取締役
委員	藤井 徳久	(株)情報工場	代表取締役社長
委員	藤岡 亮	川村・藤岡総合法律事務所	パートナー 弁護士
委員	藤本 宏樹	住友生命保険(相)	上席執行役員
委員	松林 大輔	(株)ストリートスマート	代表取締役
委員	村田 吉優	(株)サイネックス	代表取締役社長
委員	森田 亮	損害保険ジャパン(株)	専務執行役員
委員	藪ノ 賢次	クックビズ(株)	代表取締役社長 CEO
委員	山村 健司	(株)SANYO-CYP	代表取締役社長兼 CEO
委員	湯浅 大	協同組合経営情報サービス	理事
委員	吉村 孝郎	有限責任監査法人トーマツ	第2事業部長
委員長スタッフ	加藤 行教	伊藤忠商事(株)	開発・調査部 関西開発調査室長
委員長スタッフ	塚田 雅子	伊藤忠商事(株)	開発・調査部 関西開発調査室
委員長スタッフ	吉山 郷子	伊藤忠商事(株)	開発・調査部 関西開発調査室
委員長スタッフ	高梨 安哉子	伊藤忠商事(株)	開発・調査部 関西開発調査室
スタッフ	青田 強	(株)池田泉州銀行	リレーション推進部 調査役

スタッフ	浅井 利紀	朝日放送グループホールディングス(株)	
スタッフ	天羽 啓二	有限責任あずさ監査法人	シニアマネジャー / 公認会計士
スタッフ	飯島 萌	住友生命保険(相)	総務部秘書室副長
スタッフ	石田 健介	(株)みずほ銀行	秘書室 参事役
スタッフ	五十棲 高志	(株)乃村工藝社	事業統括本部 第三事業本部 開発部 第2ルーム ルームチーフ
スタッフ	市川 はるか	Plug and Play Japan	Marketing Associates, Osaka
スタッフ	一ノ瀬 敏寿	住友生命保険(相)	総務部担当部長(政策渉外)
スタッフ	植田 純人	(株)乃村工藝社	事業統括本部 第三事業本部 開発部 部長
スタッフ	浦尾 恭正	大阪ガス(株)	秘書部経営調査室
スタッフ	大木 秀一	KAHM ジャパン(株)	シニアアソシエイト
スタッフ	大野 香織	西日本電信電話(株)	主査
スタッフ	岡石 義和	(株)サイネックス	経理課 課長
スタッフ	岡本 信秀	阪急阪神不動産(株)	開発事業本部 都市マネジメント事業部 梅田事業創造グループ 課長
スタッフ	小川 博生	ダイキン工業(株)	経理財務本部 財務グループ
スタッフ	小島 大輔	(株)三井住友銀行	成長事業開発部 部長代理
スタッフ	小野山 貴浩	アート引越センター(株)	経営管理本部 課長
スタッフ	鎌田 亘顕	(株)ペイフオワード	秘書室長
スタッフ	嘉村 哲	(株)情報工場	関西支社長
スタッフ	川畑 省吾	(株)マーキュリアインベストメント	アソシエイト
スタッフ	河原 典仁	Team Energy(株)	秘書
スタッフ	河目 浩樹	阪急阪神不動産(株)	経営企画本部 DX 推進部 DX 企画推進グループ 課長
スタッフ	菅野 来夢	ライク(株)	経営戦略統括部 秘書グループ
スタッフ	菊田 政寛	損害保険ジャパン(株)	大阪企業営業第二部長
スタッフ	釘宮 健二	ソプラ(株)	ソリューション推進部 統括部長
スタッフ	小島 威裕	ケンブリッジコンサルティング(株)	CX 本部長
スタッフ	小林 壮	田辺三菱製薬(株)	経営戦略部 CEO 室 室長
スタッフ	小山 朋子	公立大学法人 大阪	企画総務課長代理
スタッフ	坂本 憲志	三菱電機(株)	副支社長
スタッフ	四方 康之	中西金属工業(株)	経営企画部 部長
スタッフ	篠崎 圭吾	(一財)大阪科学技術センター	イノベーション推進室 課長
スタッフ	芝原 尚志	西日本電信電話(株)	秘書室 担当課長
スタッフ	清水 敏夫	ダイキン工業(株)	マーケティングリサーチ本部企画グループ副参事
スタッフ	下山 正恵	(株)ダスキン	新規事業開発部
スタッフ	新階 寛仁	南海電気鉄道(株)	総務広報部長
スタッフ	新庄 利栄	富士通Japan(株)	ビジネスサポート統括部フロントサポート部 エキスパート
スタッフ	須加 由紀	(株)ストリートスマート	コーポレートデザイン部
スタッフ	大門 朋恵	(株)スマートバリュー	社長室 Division Division Manager
スタッフ	高岸 実良	阪急阪神不動産(株)	都市マネジメント事業部長
スタッフ	田川 正司	(株)ダスキン	新規事業開発部
スタッフ	竹之内 麻里	阪急阪神不動産(株)	都市マネジメント事業部 課長補佐
スタッフ	竹村 康平	南海電気鉄道(株)	秘書部
スタッフ	田中 成憲	アート引越センター(株)	秘書室 課長

スタッフ	田原 弘之	(株)乃村工藝社	事業統括本部 ビジネスプロデュース本部 万博・IR準備室 室長
スタッフ	段上 順子	西日本電信電話(株)	
スタッフ	中井 まき	住友商事(株)	国内業務企画部員
スタッフ	中野 真平	(株)マーキュリアインベストメント	バイス・プレジデント
スタッフ	西村 由佳	大同門(株)	社長室室長
スタッフ	萩原 大作	学校法人 エール学園	理事・校長
スタッフ	橋本 寛之	(株)ミライロ	取締役
スタッフ	濱松 勇治	近鉄グループホールディングス(株)	事業戦略部長
スタッフ	早川 直宏	(株)乃村工藝社	事業統括本部 ビジネスプロデュース本部 万博・IR準備室 チーフ
スタッフ	平野 剛	西日本旅客鉄道(株)	総合企画本部 担当部長
スタッフ	福田 卿也	(株)博報堂	チーフイノベーションプランニングディレクター
スタッフ	藤田 一人	近鉄グループホールディングス(株)	事業戦略部長
スタッフ	松井 郁子	田辺三菱製薬(株)	総務部 CSR 推進グループ 担当課長
スタッフ	宮川 潤	(株)三井住友銀行	関西成長戦略室・成長事業開発部 部長
スタッフ	門間 寿昌	近畿総合リース(株)	取締役専務執行役員
スタッフ	山本 雅文	(株)アウトオフィス	代表取締役社長
スタッフ	吉田 知洋	(株)マーキュリアインベストメント	バイス・プレジデント
スタッフ	吉原 達哉	(株)大広	大阪 BAP 本部 D2C ビジネス推進局コンサルティングチーム 部署長
スタッフ	若林 慎吾	(株)ユニオン	管理部 課長
スタッフ	渡辺 章博	日光化成(株)	企画広報 G
代表幹事スタッフ	高澤 求尚	日本生命保険(相)	本店企画広報部 部長 ^(※)
代表幹事スタッフ	板並 夏郎	日本生命保険(相)	本店企画広報部 担当部長
代表幹事スタッフ	米村 麻衣子	日本生命保険(相)	本店企画広報部
代表幹事スタッフ	松尾 昌行	(株)プロアシスト	管理本部 本部長
代表幹事スタッフ	清林 靖	(株)プロアシスト	経営企画部 社長特命担当(戦略事業企画)
代表幹事スタッフ	谷川 雄紀	(株)プロアシスト	経営企画部社長特命担当(R&D 企画)
事務局	廣瀬 茂夫	(一社)関西経済同友会	常任幹事 事務局長
事務局	吉竹 良陽	(一社)関西経済同友会	顧問(事務局長補佐)
事務局	與口 修	(一社)関西経済同友会	企画調査部長
事務局	木津 光明	(一社)関西経済同友会	企画調査部課長
事務局	香川 明彦	(一社)関西経済同友会	企画調査部係長

(※) 異動のため、2022 年 3 月まで

11. 参考

● 共催・協力・後援イベント一覧

当委員会での具体的活動に加え、当会全体としても、他の経済団体や大学、行政との連携を密にし、関西におけるベンチャーエコシステムの実装に取り組んでいる。

2021 年度 共催・協力・後援イベント一覧：

	開催日(もしくは開始日)	イベント名	主催者、関係団体	当会
1	2021/4/12	Israel Smart Mobility Webinar - Future Connected & Autonomous Innovations	駐日イスラエル大使館経済部 イスラエル輸出国際協力機構	共催
2	2021/5/10	グローバル・イノベーション・フォーラム(GIF)2021 日本代表スタートアップ選抜コンテスト	大阪商工会議所	協力
3	2021/5/20	スタートアップ発展支援プロジェクト「RISING!」3.0	大阪産業局	協力 (※1)
4	2021/5/26	OSAKA MEIKAN GROWTH DRIVE21	OSAKA MEIKAN 実行委員会	後援
5	2021/6/1	関西 NBC ニュービジネスアワード 2021	一般社団法人関西ニュービジネス協議会	後援
6	2021/6/1	SDGs チャレンジ事業	兵庫県神戸市	後援
7	2021/6/7	堺市スタートアップ実証推進事業 【さかいスタートアップトライアル ラウンドテーブル】	堺市、 (株)さかい新事業創造センター	協力
8	2021/6/29	イスラエル スマートグリッド・再生可能エネルギー ウェビナー	駐日イスラエル大使館経済部、 イスラエル輸出国際協力機構	共催
9	2021/6/30	KGAP+Batch5 Israel Challenge	(株)国際電気通信基礎技術研究所	協力
10	2021/7/6	グローバル・イノベーション・フォーラム(GIF)2021 日本代表スタートアップ選抜コンテスト	大阪商工会議所	後援 (※1)
11	2021/7/15	京阪神スタートアップが語る海外アクセラレータからの学びとススム	主催(京都・大阪・ひょうご神戸コンソーシアム)	主催 (※1)
12	2021/7/20	シェアリングエコノミー協会関西支部主催イベント 「シェアねん」	シェアリングエコノミー協会関西支部	後援
13	2021/7/28	Tohoku Startup Global Challenge Program 2021	株式会社 MAKOTO キャピタル	後援
14	2021/7/29	大阪市立大学ヘルステックスタートアップス 2021	大阪市立大学	協力
15	2021/7/30	大阪府立大学「第 7 回高校生起業家教育講座」	大阪府立大学	後援
16	2021/8/2	第 7 回高校生起業家教育講座	大阪府立大学	後援 (※1)
17	2021/8/4	SDGs CHALLENGE	神戸市医療・新産業本部 新産業課	後援
18	2021/8/5	KGAP+DAY -Batch5 Unveiling-	駐日イスラエル大使館経済部、 西日本イスラエル貿易事務所	協力
19	2021/8/17	RISING ! 3.0	公益財団法人大阪産業局 一般社団法人 EO Osaka	協力
20	2021/8/24	スマートシティセミナー&ミートアップ	大阪産業局	協力 (※1)
21	2021/8/26	「スタートアップ起業・参画への挑戦を通じた人材育成とイノベーションの創出」	主催(京都・大阪・ひょうご神戸コンソーシアム)	主催 (※1)
22	2021/8/27	U-25 kansai pitch contest vol.6	株式会社MJE	協力 (※1)
23	2021/9/1	キャンパスベンチャーグランプリ大阪 2021(CVG2021)	日刊工業新聞社	後援
24	2021/9/30	米国ワシントン州新興企業 10 社によるオンラインピッチと Meetup	大阪産業局(国際事業部)	協力 (※1)
25	2021/10/5	Startup Initial Program Osaka(SIO)連続講座編	大阪産業局	協力 (※1)
26	2021/10/6	JIN 第 2 回イスラエル スマートモビリティバーチャルイベント	駐日イスラエル大使館経済部、 西日本イスラエル貿易事務所	共催
27	2021/10/25	第 10 回大阪大学 健康・医療クロスイノベーションフォーラム	大阪大学大学院医学系研究科・医学部 附属病院 産学連携・クロスイノベーションイニシアティブ	後援
28	2021/10/27	グローバル・イノベーション・フォーラム Osaka 2021	大阪商工会議所 国際部	協力 (※1)
29	2021/11/19	産業技術支援フェア in KANSAI 2021ーものづくり×「いのちを救う」	関西広域連合 広域産業振興局	主催
30	2021/11/25	京銀・東証イノベーションピッチ 2021 Powered by OSAKA UNIVERSITY	京都銀行、(株)東京証券取引所／(株)大阪取引所／(株)日本取引所グループ	後援

31	2021/12/3	日本ベンチャー学会 第24回全国大会	日本ベンチャー学会	協力 (※1)
32	2021/12/21	京阪神 海外アクセラ採択企業 Meet-Up !	主催(京都・大阪・ひょうご神戸コンソーシアム)	主催 (※1)
33	2022/1/26	第18回ジャパン・シアトル “オンライン” AI ミートアップ	ワシントン州政府商務省、オリック法律事務所、SWAN ベンチャーグループ	後援 (※1)
34	2022/1/31	関西アカデミア×KSII×SMBC 「第1回 Challenge 万博『いのち輝く未来社会』」	三井住友銀行、 関西イノベーションイニシアティブ	後援
35	2022/2/10	「京都大学イノベーションキャピタルが取り組む地域活性化～連続的な新事業創出に向けて～」本講演 Featured by KPMG	有限責任あずさ監査法人	後援
36	2022/2/10	国際イノベーション会議 Hack Osaka 2022	国際イノベーション会議 Hack Osaka 実行委員会事務局	後援 (※1)
37	2022/2/17	KGAP+DAY -Batch6 DEMO-DAY-	駐日イスラエル大使館経済部、西日本イスラエル貿易事務所	協力
38	2022/2/22	KANSAI STUDENTS PITCH Grand Prix 2021 Presented by KSAC	KANSAI STUDENTS PITCH Grand Prix 連絡協議会 京阪神スタートアップアカデミア・コアリション(KSAC)	主催 (※2)
39	2022/2/26	第21回年次大会「SDGs／ソーシャルベンチャー×女性起業家」	関西ベンチャー学会	後援
40	2022/3/3	神戸大学・大阪工業大学共同事業 JST SCORE 大学推進型デモデイ	国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)、神戸大学、大阪工業大学	後援
41	2022/3/7	スタートアップ×中堅・中小企業 マッチング商談会 ～中堅・中小企業のデジタル化に資するサービス～	大阪商工会議所 京都商工会議所 神戸商工会議所	協力 (※1)
42	2022/3/12	IPO 経験者に聞く、事業成長に向けた本気の少人数トーク会	主催: OIH 共催: 京都・大阪・ひょうご神戸コンソーシアム	共催 (※1)
43	2022/3/15	未来に備えた進路【Career Meeting】 ー20代で成長するためのキャリアー	主催(京都・大阪・ひょうご神戸コンソーシアム)	主催 (※1)

(※1) 大阪スタートアップ・エコシステムコンソーシアムとしての関与(当会も構成団体の一つ)

(※2) KSAC としての関与(〃)

関西エコシステムマップ

各省庁

行政

民間

大学



●関西エコシステムマップ(マップ掲載先の補足)

主幹団体、運営元	問い合わせ先
内閣府	
●官民研究開発投資拡大プログラム(PRISM) スタートアップ・エコシステム形成推進事業 https://www8.cao.go.jp/cstp/stmain/20210127oi.html ※令和2年度の事業には大阪・京都・ひょうご神戸コンソから13社が参加(全国50社中)	内閣府 政策統括官 (科学技術政策・イノベーション担当)付 オープンイノベーション担当
●世界と伍するスタートアップ・エコシステム拠点都市の形成 https://www8.cao.go.jp/cstp/openinnovation/ecosystem/index.html 「Beyond Limits. Unlock Our Potential～世界に伍するスタートアップ・エコシステム拠点形成戦略～」を踏まえ、地方自治体(区市町村・都道府県)と大学と民間組織(ベンチャー支援機関、金融機関、デベロッパー等)を構成員とするコンソーシアム(協議会等)に対して、「スタートアップ・エコシステム拠点都市形成プラン」を公募、有識者と内閣府、経済産業省、文部科学省による選定委員会で拠点都市を選定しました。拠点都市のスタートアップに対しては、政府、政府関係機関、民間サポーターによる集中支援を実施することで、世界と伍するスタートアップ・エコシステム拠点形成を目指す。	内閣府 科学技術・イノベーション推進事務局 イノベーション推進担当
●Biock(バイオコミュニティ関西)※令和4年4月頃通知予定 https://biock.jp/ 持続可能な社会実現のため、バイオフィーストの発想を広げ、国際都市型バイオコミュニティの形成をめざす。当面の目標は、社会課題解決と次世代の産業振興のためのオープンイノベーションの場をつくること。	NPO 法人近畿バイオインダストリー振興会議 公益財団法人都市活力研究所
文部科学省 MEXT	
●大学発新産業創出プログラム (大学・エコシステム推進型 スタートアップ・エコシステム形成支援) http://www.jst.go.jp/start/jigyo/su-ecosys.html スタートアップ・エコシステム拠点都市においてプラットフォームを構築する大学や機関に対し、一体的に取り組むための活動に必要な支援を実施。	国立研究開発法人科学技術振興機構 産学連携展開部 START 事業グループ
●SCORE(社会還元加速プログラム)(大学推進型) https://www.jst.go.jp/start/jigyo/score-u.html SCORE(大学推進型)では、大学にて、学内の研究代表者の技術シーズを基にした大学発ベンチャーの創出にむけた研究開発課題の募集・選考、及び起業活動支援プログラムの運営を推進。	国立研究開発法人科学技術振興機構 産学連携展開部 START 事業グループ

●KSAC(京阪神スタートアップ アカデミア・コアリション) https://www.innovation-osaka.jp/ja/startup-ecosystem/score-gap/ 科学技術振興機構(JST)事業の SCORE 大学推進型の下、新しい社会的価値の創出に繋がる挑戦的・創造的で、かつ、広く社会的課題を解決し、我が国の社会全体の調和ある持続的発展に寄与すると見込まれる研究成果・技術の実用化・事業化を推進することを目的としている。	京阪神スタートアップ アカデミア・コアリション 事務局
●SCORE(社会還元加速プログラム)(チーム推進型) http://www.jst.go.jp/start/jigyoscore.html SCORE(チーム推進型)では、研究者と事業化プロデューサー等が、事業化支援ノウハウを持つアクセラレーターによる研修やメンタリングで起業に有益な知識を実践的に学習。	国立研究開発法人科学技術振興機構 産学連携展開部 START 事業グループ
●START(研究成果展開事業 大学発新産業創出プログラム) https://www.jst.go.jp/start/jigyoscore.html 大学発新産業創出プログラム(START)では、事業化ノウハウを持った人材(「事業プロモーター」)ユニットを活用し、大学等発ベンチャーの起業前段階から、研究開発・事業育成のための公的資金と民間の事業化ノウハウ等を組み合わせることにより、ポテンシャルの高い技術シーズに関して、事業戦略・知財戦略を構築しつつ、市場や出口を見据えて事業化を目指す。	国立研究開発法人科学技術振興機構 産学連携展開部 START 事業グループ
経済産業省 METI	
●J-NEXUS https://www.meti.go.jp/policy/innovation_corp/j_nexus.html これによって採択されたのが関西イノベーションイニシアティブ(KSII)	経済産業省 産業技術環境局 大学連携推進室
●J-イノベ https://www.meti.go.jp/policy/innovation_corp/j_innovation.html 国立大学法人、公立大学法人、学校法人(私立大学)、高等専門学校及びこれらに準じる機関を中心とした地域イノベーション拠点の中で、企業ネットワークのハブとして活躍している産学連携拠点を国際展開型と地域貢献型の2類型で評価・選抜することにより、信用力を高めるとともに支援を集中させ、トップ層の引き上げを促すことを目的とし、経済産業省が伴走支援を行う。	経済産業省 産業技術環境局 大学連携推進室

●J-Startup https://www.j-startup.go.jp/ https://www.j-startup.go.jp/about/ 世界で戦い、勝てるスタートアップ企業を生み出し 革新的な技術やビジネスモデルで世界に新しい価値の提供を目指す。	経済産業省 経済産業政策局 新規事業創造推進室(METI) 独立行政法人日本貿易振興機構(JETRO) イノベーション・知的財産部 スタートアップ支援課(NEDO) 国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構 イノベーション推進部 スタートアップグループ
近畿経済産業局	
●J-Startup KANSAI https://next-innovation.go.jp/j-startup-kansai/ https://next-innovation.go.jp/j-startup-kansai/about/ 関西発の有望なスタートアップ企業群を明らかにし、地域ぐるみで起業家を応援・支援する仕組みを構築することで、地域が起業家を生み、育てる好循環(=「エコシステム」)の強化を目指す。	METI KANSAI 近畿経済産業局 産業部 創業・経営支援課
大阪府	
●RISING ! https://www.innovation-osaka.jp/rising/ https://www.pref.osaka.lg.jp/shogyoshien/hattenshien/ 大阪でのスタートアップ・エコシステムの構築と将来の大阪発のロールモデルとなる企業の発掘、成長支援のため、2019 年からスタート(大阪市は共催)。	大阪府商工労働部 中小企業支援室商業・サービス産業課 新事業創造グループ
●大阪起業家グローイングアップ https://www.obda.or.jp/jigyo/growingup.html http://osaka-startupper.jp/ ビジネスプランコンテスト等を通じた有望起業家の発掘、補助金の支給、ビジネスプランから成長過程までの一貫したハンズオン支援を組み合わせることにより、創業者の着実な成長を支援します。これらの取組みを府内の官民の起業支援機関と連携実施することにより、「オール大阪」での起業家支援に取り組む。	大阪起業家グローイングアップ事務局 (運営主催:公益財団法人大阪産業局 共催:大阪府商工労働部 中小企業支援室 商業・サービス産業課 新事業創造グループ)
●Booming! http://www.osaka-booming.com/ 株式の新規上場等を目指す成長志向のベンチャー企業に対して、先輩起業家が情熱と知識の注入を行うことで、その企業の成長を加速させるプログラム。	Booming!運営事務局

公益財団法人大阪産業局（大阪市経済戦略局の関連団体）	
●OIH (Osaka Innovation Hub) https://www.innovation-osaka.jp/ja/ 「大阪から世界へ」をテーマに、新たな事業の創出やスケールアップにつながるイベント・プログラム(年間約 250 回)を開催。そして、多様な人や企業、アイデアの交流を通して、コミュニティの形成やビジネスプランの事業化をサポート。京都・神戸とも連携し、大阪・関西において起業家を生み、育て、成功者にし、成功者が次の成功者を生む好循環(イノベーション・エコシステム)の構築を進めている。	公益財団法人 大阪産業局
●大阪スタートアップ・エコシステムコンソーシアム https://www.innovation-osaka.jp/ja/startup-ecosystem/consortium/ 大阪スタートアップ・エコシステムコンソーシアムは、京都、ひょうご・神戸の各コンソーシアムとの連携により 2020 年 7 月 14 日、内閣府が進める「世界に伍するスタートアップ・エコシステム拠点形成戦略」の「グローバル拠点都市」として選定。	公益財団法人大阪産業局 イノベーション推進部 スタートアップ・エコシステム担当
●NEXT INNOVATION https://www.obda.or.jp/jigyo/next-innovation.html https://next-innovation.go.jp/renovator/ 若手後継者が、家業が持つ有形無形の経営資源を最大限に活用し、リスクや障壁に果敢に立ち向かいながら、新規事業、業態転換、新市場開拓など、新たな領域に挑戦することで社会に新たな価値を生み出すことを応援。	NEXT INNOVATION 運営事務局 Osaka Innovation Hub (大阪イノベーションハブ内)
●おおさかベンチャーチャレンジ https://www.obda.or.jp/jigyo/ff.html https://www.sansokan.jp/fm/ 業構築に必要なスキルとして、【課題抽出～マーケティング調査～検証結果を事業に活かす】までを、専門家と一緒に取り組む支援プログラム。そして、事業検証した結果をふまえた今後の行動計画を作成、評価されると、事業成長に必要な資金として成長支援金(50 万円)と約半年間のハンズオン支援が提供される。	大阪産業創造館 (大阪産業創造館は大阪市経済戦略局の中小・ベンチャー企業支援拠点として 2001 年 1 月に開業。大阪市経済戦略局の関連団体である「公益財団法人大阪産業局」が運営)
●大阪起業家グローイングアップ https://www.obda.or.jp/jigyo/growingup.html http://osaka-startupper.jp/	公益財団法人 大阪産業局
●SIO(スタートアップ・イニシャル・プログラム OSAKA) https://sio.innovation-osaka.jp/ 大阪・関西でのスタートアップ・エコシステムの構築と将来の大阪発のロールモデルとなる企業の発掘、成長支援のため、メンタリング・ワークショップ・コミュニティ活動を行う。	公益財団法人 大阪産業局 共催:大阪府 運営:株式会社リバネス 協力:大阪スタートアップ・エコシステムコンソーシアム

●Get in the RING OSAKA https://www.innovation-osaka.jp/gitr/ 2012 年にオランダで始まったスタートアップのピッチコンテスト。 世界 100 か国以上で、本物のリング上で繰り上げられる臨場感あふれるピッチバトル。	公益財団法人 大阪産業局 大阪イノベーションハブ
●その他 https://www.obda.or.jp/jigyo.html	
関西広域連合	
●Startup Ecosystem KANSAI https://www.starecokansai.com/	大阪・京都・ひょうご神戸コンソーシアム 事務局:公益財団法人大阪産業局 イノベーション推進部 スタートアップ・エコシステム担当